

## アドビ システムズ社、 デジタル シネマ ファイル向けの オープン フォーマット 開発 イニシアティブを開始

デジタル シネマ ワークフローに柔軟性と一貫性をもたらす新しいオープンなフォーマット

**【2008 年 4 月 15 日】**

米国カリフォルニア州サンノゼ発（2008 年 4 月 14 日）Adobe Systems Incorporated（Nasdaq: ADBE）（本社：米国カリフォルニア州サンノゼ、以下アドビ システムズ社）は、ワークフローから無駄を省き、アーカイブ化やファイル交換を容易に行えるよう、業界全体にわたって使用されるデジタル シネマ ファイル向けのオープンなファイル フォーマットを定義するためのイニシアティブを開始するという計画を発表しました。この発表は、アドビ システムズ社が成功を収めた Digital Negative Specification（DNG）ファイル フォーマットを基盤として活用し、オープンかつ公開資料に基づくファイルフォーマットの規格策定を推進するもので、CinemaDNG の名称が予定されています。この規格の要件を定義するためアドビ システムズ社は、幅広いデジタルシネマ関連企業（Panavision、Silicon Imaging、Dalsa、Weisscam、および ARRI を含む主要な映画用カメラ メーカー、Iridas と The Foundry を含むソフトウェア ベンダー、およびコーデック プロバイダーの CineForm）各社との連携を進めます。

アドビ システムズ社は、現在 CinemaDNG ワークフローに関する要件を作成しており、今後業界各社との協力を通じてこのファイル フォーマットの規格を発表する予定です。

アドビ システムズ社のダイナミックメディア部門のバイスプレジデントであるジム ジェラルド（Jim Guerard）は、「この CinemaDNG イニシアティブにより、当社はデジタルスチルカメラを対象としたオープンで互換性を持つフォーマット開発におけるリーダーシップをデジタル シネマの世界にも広げようとしています。積極的にその役割を果たすとともに、主要デジタル シネマ メーカーと協力し、当社は映画のエコシステム全体がメリットを享受できるような業界規格の定義を支援します。映画製作者はデジタル シネマ カメラを安心して導入することが可能で、またカメラ メーカーは既存のワークフローとのフォーマット互換性を確保しながら専門的な機能を提供できるようになります」と述べています。

製作のクリエイティビティを高め、コストの削減と製作時間を大幅に短縮できることから、多くの映画製作者がフィルムに代わり、デジタル シネマ カメラとそのワークフローの採用を進めています。しかしこの新しいワークフローには様々なハードウェアとソフトウェアが関わり、製作工程を通じて複数のベンダーによる製品が使用されます。各ベンダーの様々な RAW ファイル フォーマットが増えることにより、デジタル シネマのメリットのいくつかは損なわれる恐れがあります。長期的に使用されるオープンかつ、製作工程全体にわたって採用可能な規格の開発において積極的に役割を果たすことにより、アドビ システムズ社をはじめとする各社は CinemaDNG イニシアティブを通じ、この重要な、新たに出現してきたワークフロー上の課題の解決に取り組みます。

### **映画製作者にとってのメリット**

資料が公開されたオープンなファイルフォーマットである CinemaDNG は、映画製作者に様々なメリットをもたらします。まず複数の機器、ベンダー、およびファイルフォーマットが関わるワークフローにおいて、互換性の欠如による作業の中断を避けることが可能になります。また CinemaDNG は長年にわたってサポートされるオープンで標準化されたフォーマットとなるため、デジタルシネマカメラの導入にあたって、ベンダーやカメラ特有のファイルフォーマットが将来的にサポートされなくなるというリスクを回避することができます。また、新世代の RAW 対応デジタルシネマカメラにも対応する、強力なアーカイブ規格を利用できるという安心感を得ることができます。CinemaDNG はさらに最高品質の素材を利用した編集ワークフローを実現するための基盤ともなります。

### **メーカーにとってのメリット**

CinemaDNG の採用は、カメラメーカーやソフトウェア開発者にとっても大きなメリットとなります。既存の製作ワークフローに新しい製品を導入する場合、互換性の確保が課題となりますが、CinemaDNG は高い互換性と新製品への即応性を兼ね備えたフォーマットとして、これらの問題を解消します。各社独自のファイルフォーマットや変換ユーティリティを開発する必要がなくなるため、開発費用の削減にも貢献します。また、CinemaDNG は各社ごとのメタデータもサポートする予定であり、メーカーは自社製品を他社に対して差別化することが可能になります。

ロンドンに本社を置く有数のビジュアルエフェクトソフトウェアの開発会社である The Foundry 社の最高技術責任者、ブルーノニコレッティ (Bruno Nicoletti) 氏は、「よりスムーズで無駄のないワークフローは例外なく良いことであり、オープン規格はこれを実現するための優れた手段です。映画業界全体でデジタルカメラ RAW データの採用を促す CinemaDNG に関するアドビシステムズ社の計画を当社は支援しています」と述べています。

ミュンヘンに本社を置くデジタルシネマカメラのトップメーカーである ARRI 社のカメラおよびレンズ担当プロダクトマネージャ、マルクシップマン-ミュラー氏は、「私たちはポストプロダクションに適した RAW データをカメラ側で生成するための現実的かつ実用的な手法を確立するため努力を続けています。この将来をみすえた製作工程は、RAW データの利用による様々なメリットをユーザにもたらします。その発展のためには業界を横断する RAW データ標準化を欠くことはできません」と述べています。

### **アドビシステムズ社について**

アドビシステムズ社は、時間や場所、利用するメディアや機器を問わず、あらゆるユーザーのアイデアや情報との関わり方に変革をもたらしています。アドビシステムズ株式会社はその日本法人です。同社に関する詳細な情報は、Web サイト <http://www.adobe.com/jp> に掲載されています。